

- 2 新年のあいさつ
- 4 もしもの時に備えて 地域でつくる防災力
- 10 熊本天草幹線道路の 整備が進んでいます
- 12 第2回天草市公式Instagram フォトコンテスト入賞作品
- 13 世界遺産トピック／天草見どころ図鑑
- 14 いきいき健康
- 16 くらしの情報
- 32 市民のひろば
- 33 キラリ天草人
- 34 未来のスター／和んチーム
- 35 わたしの記念日
- 36 宝島のわだい
- 38 お出かけ情報
- 39 休日在宅病・医院 水道修繕当番店
- 40 今冬の新型コロナウイルス感染症対策



LINE



Facebook



Instagram

人のうごき

11月末日現在

11月中の異動

※()内は前月比

人口	78,297 (108減)	出生	32人
男	36,765 (49減)	死亡	140人
女	41,532 (59減)	転入	86人
世帯数	36,769 (49減)	転出	86人

問い合わせ先

本 庁	天草市役所 ☎23-1111 〒863-8631 天草市東浜町8番1号
支 所	牛 深☎73-2111・有 明☎53-1111 御所浦☎67-2111・倉 岳☎64-3111 栖 本☎66-3111・新 和☎46-2111 五 和☎32-1111・天 草☎42-1111 河 浦☎76-1111



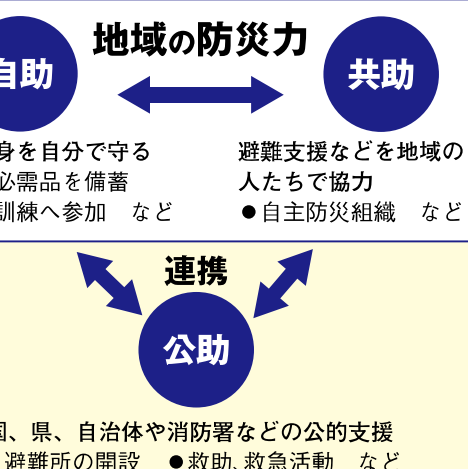
火災や地震、大雨などの災害は、突然私たちが襲います。平成28年に起こった熊本地震や令和2年7月豪雨災害のような大規模災害が起きると被害も広範囲にわたります。避難誘導や救助活動、復旧作業等を早急に行うには市や消防署などの公的機関だけでなく、消防団や地域住民でつくる自主防災組織など地域の人たちの力も必要です。

今号では、消防団と自主防災組織を紹介します。地域で協力し、もしもの時に備えましょう。

☎ 防災危機管理課 ☎ 24-8817

自助・共助・公助が連携
大規模災害が発生した際、被害拡大を防ぐための対応等を市町村や消防署などの公的機関だけで行うには限界があります。阪神・淡路大震災時、神戸市内では、生き埋めや閉じ込められた人の約9割が自力または家族、隣人などに救助されたという調査結果もあります(図1)。

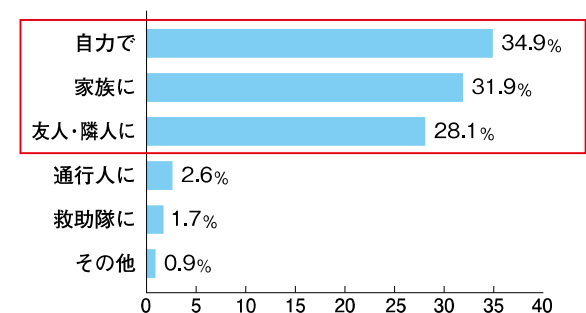
一人ひとりが備える〴〵地域や近隣の人たちと協力する〴〵市町村などによる公的支援〴〵の自助・共助・公助が一体となることで被害を最小限に抑えることができます。早期復旧につながります。



もしもの時に備えて 地域でつくる 防災力



生き埋めや閉じ込められた際の救助(図1)



出典：「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書(神戸市内、熊本調査)」(日本火災学会)
参考：「自主防災組織の手引き」(総務省消防庁)

／いろいろな職種、地域の人と交流できる／

隊員歴
12年

鶴長 美涼^{みすず}さん 37歳 女性消防隊

入隊は、屋内消火栓の操作方法を競う大会に出場したことで火災予防に興味が湧いたことと消防署職員や当時の職場の上司に勧められたことがきっかけでした。

女性消防隊は、防火パレードや一人暮らしの高齢者宅を訪問して火災予防を呼びかけるなどの啓発活動をしています。男性の団員には話しぶりと言われる高齢者もいて女性隊員の必要性を肌で感じました。

他にも軽可搬ポンプの操法大会など仲間と一つの目標に向かって頑張るという貴重な体験を社会人になってからもできます。

楽しみながら防災知識の習得やいろいろな職種・地域の人と交流できることも女性消防隊の魅力だと思います。自分のため、地域のために一緒にがんばりましょう。



／地域の人に顔を覚えてもらえた／

団員歴
8年

原田 正人^{まさひと}さん 34歳 五和方面隊

消防団は引っ越したばかりのとき地域の団員から誘われたことがきっかけで入団しました。その時は大変そうなイメージがあったので仕事と両立できるのが心配でした。

消防団はいろんな活動がありますが、訓練や定期的な点検などは事前に分かるので予定を調整して参加しています。消火・救助活動は仕事の都合で出動できないことも多く、他の団員にカバーしてもらいながら自分のできる範囲で活動しています。

入団してよかったと思うのは、地域の人に顔を覚えてもらえたことです。地域行事では近所以外の人にも声を掛けてもらえるようになりました。

大変なことも多い消防団ですが、地域の人に「大変ね。お疲れさま」と声を掛けてもらったときはやってよかったなと思います。少しでもお世話になっている地域の役に立てるようこれからも頑張りたいです。



令和3年 消防出初式

と き
1月17日⑥ 午前9時～
ところ
本渡運動公園陸上競技場

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため表彰などの式典のみ実施。雨天時は、天草市民センター体育館で行います。

団員・女性隊員 入団をお願いします

地域を守る消防団(隊)員が不足しています。ぜひ入団をお願いします。

入団資格 市内在住で、18歳以上の健康な人
待 遇 ・消火などの活動に対しての手当てや報酬を支給
・活動に必要な活動服などを貸与
・活動によりケガをした場合は、補償があります
・一定期間活動すると退職報奨金を支給

入団方法 防災危機管理課または各支所へ電話してください。

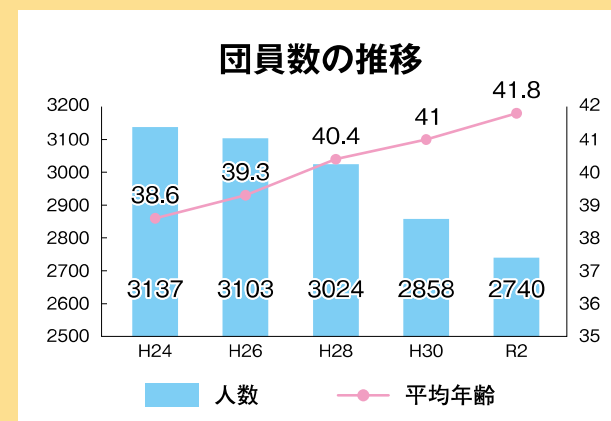
地域を 守る 消防団

消防団は、消防職員が勤務する「消防署」とは異なり、他に本業を持つ一般市民で組織されています。火災や災害が発生すると自宅や職場からいちちはやく現場へ駆けつけて消火・救助活動をするなど地域の消防・防災のリーダーとして、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

団員が足りない…

本市の団員数は年々減少し、現在は 2,740 人。平均年齢は 41.8 歳と8年前より3歳上昇しました。職場が自宅から離れており、日中の出動が難しい団員も多く、不足する消防力を補うために「機能別団員」として 145 人の元消防団員にも活躍していただいています。しかし、これを含めても必要人数を約 500 人も下回っている状況です。

いつ発生するかわからない災害時に消防団としての機能を十分に発揮するためにも団員確保が必要です。



消防団はこんな活動をしています

水防活動

台風や大雨で河川などが氾濫しないよう、巡回や土のうを積むなどの防災活動を行います。



▲災害に備えて土のう作り

救助活動

災害時に消防や警察などと協力して捜索・救助活動・避難誘導などを行います。



▲負傷者を運ぶ訓練

消火活動

火災が起きると消火活動を行い、鎮火後も再び発火しないように警戒を続けます。



▲消火活動をする団員

各種訓練への参加

市や地域が行う各種防災訓練に参加したり、規律訓練や資機材の点検、操作訓練などを行い、災害発生を想定して日頃から訓練します。



▲火災に備えてポンプを点検

防火・防災啓発活動

火災予防週間の広報活動や年末に管轄地域を巡回するなどして地域住民に火災予防を呼びかけます。



▲ラジオで火災予防の呼びかけ

環境整備

避難経路の看板



誰でも避難所の場所が分かるように分かれ道に看板を設置。

防災倉庫の設置

災害時に避難場所で数日過ごすことを想定してテントや発電機、ライト、保存食などを入れる倉庫を各避難場所に設置。



▲防災用品の一部



▲計4つの防災倉庫を設置

鬼池地区 自主防災会

(五和町)

同地区は海に面した地域のため高台に避難場所を設けるなど高潮や津波を想定した避難訓練を行っています。

災害時に行動するためには、同じ訓練を繰り返すことが大切だと思います。



会 長 山下 保一さん(左)
副会長 前田 利清さん(右)

避難訓練 炊き出し訓練など

コミュニティセンターや自治公民館が平地にあるため、7年前に避難場所を各行政区内の高台に変更。地域の食生活改善推進員や消防団と協力してポリ袋を使った炊き出し訓練や消火訓練を行うなど住民が一体となって活動しています。



▲竹と毛布を使った即席担架



▲皿などを使わずに食べられる非常食



▲消火栓の使い方を習う

活用できる補助金があります

☎ 24-8817 消防防災危機管理課

市自主防災組織

設立促進・活動活性化事業補助金

防災資機材等の購入や防災士の資格取得などに要する費用で5万円を上限に補助。

対象 新たに設立、または現在活動中の組織。
ただし、過去2年間補助を受けていないこと(防災士資格取得費用は毎年申請可)。
※予算に限りがあるため早めにご相談ください。

◆ 地域での備えが被害を最小限に抑える力ギ ◆

災害はいつどこで起こるか分かりません。大規模災害時に被害を最小限に抑え、早期復旧につなげるためには市や消防署などの公的支援だけでなく、自分の身を守る備え、消防団や自主防災組織など地域でつくる防災力が必要不可欠です。みんなで協力し、もしもの時に備えましょう。

地域で 支え合う 自主防災組織

自主防災組織は、地域住民が自主的に防災活動を行う組織。本市でも8割の地域で結成されています。普段は防災知識の普及・啓発や避難訓練、災害時は地域住民の安否確認や避難誘導などを行います。災害時の被害を少しでも減らすためには近隣住民が協力して普段から備えることが大切です。今回、地域に合った訓練などの活動をしている自主防災組織の取り組みを紹介します。

瀬戸町 防災会

平成7年に同町の青壮年部を中心に結成。現在は17人で活動しており、25年の歴史があります。

▶お揃いの防災服を着た皆さん



環境整備

側溝の泥上げ

大雨の時に道路が冠水しないよう毎年区画を分けて100～200mを作業。



消火器を設置

地域住民が初期消火に当たれるよう道路沿いに12カ所設置。



防災用品の準備

防災倉庫にはテントや炊き出し用の釜などを保管。消火活動用に小型のポンプも購入。



避難訓練 消火訓練など

毎年、テントを設置して名簿を確認するなど災害時を想定して実施。避難後は消火器の使い方やAEDを使った救命救急訓練など普段の生活に生かせる内容になっています。年末には夜警で火災予防を呼びかけています。



▲消防署職員がAEDの使い方を指導



▲子どもたちも参加

若手の人材確保

引っ越しを機に加入しました。活動を始めて自身自身の防災意識が向上したと感じています。



すがわら ひでひと
菅原 秀仁さん(33歳)(左)
たけもと しんたろう
嶽本 真太郎さん(34歳)(右)